拡大する欧州高等教育圏（EHEA）？
――高等教育改革モデル・地域間協力としてのボローニャ・プロセス――

最終更新：2007 年 8 月 10 日
OFIAS リエゾン・オフィサー　新井早苗

ボローニャ・プロセスは、欧州が自分たちの競争力や外部への魅力を高めるのを目的に比較的排他的なクラブとして始めたもので、当初の課題は「教育構造制度」、「資格認定フレームワーク」、「質の保証システム」、「認証問題」、「雇用可能性」などであり、欧州外との関係はもっぱら「欧州の魅力」「欧州の競争力」などで表されていた。しかしプロセスが進み他地域に影響が感じられるに従い、「External Dimension」「ボローニャ・コーポレーション」などをキーワードに、高等教育改革モデル、地域間協力の側面が強く意識されるようになっている。

欧州内部での External Dimension 概念形成の流れをたどった後、世界各地域の反応状況（無反応状況）を観察しながら留意点を取り出し、日本、更には TUFS へのインプリケーションに関するディスカッションの材料といたしたい。

1．ボローニャ・メンバーシップ

- 2003 年 9 月のベルリン会合前の提言：「ボローニャ・プロセスの実行は署名国にとり大変な作業であり、非欧州の国を入れて更に複雑になるような事態は避ける必要がある」
- ベルリン会合において参加資格が「欧州文化条約European Cultural Convention加盟国であり、自国高等教育システムにおいてボローニャ・プロセスの目標を推進する意思のある国」と設定された。
  - ＊欧州文化条約加盟国：Albania, Andorra, Armenia, Austria, Azerbaijan, Belgium, Bosnia and Herzegovina, Bulgaria, Croatia, Cyprus, Czech Republic, Denmark, Estonia, Finland, France, Georgia, Germany, Greece, Hungary, Iceland, Ireland, Italy, Latvia, Liechtenstein, Lithuania, Luxembourg, Malta, Moldova, Monaco, Montenegro, Netherlands, Norway, Poland, Portugal, Romania, Russia, San Marino, Serbia, Slovakia, Slovenia, Spain, Sweden, Switzerland, the former Yugoslav Republic of Macedonia, Turkey, Ukraine, United Kingdom。その他 the Council of Europe 非メンバーでは Belarus, Holy See
  - ＊資格がありながら 2007 年 7 月現在ボローニャ・プロセスに未参加なのはベラルス、モナコ、サン・マリノのみ

2．External dimension をめぐる流れ：Working Group on the External Dimension of the Bologna Process 及び External Dimension Strategy

- 他地域との歴史的な関係
- 2001 年プラハ会合後（プラハ・フォローアップ・ミーティング）「External Dimension」という表現がよく使われるようになったが、1990 年代初めからあったアイディアが発展したもの
- 2001 年：BFUGがWorking Group on the External Dimension of the Bologna Processを設置。議長ノルウェー。初期メンバーは 11 カ国（ノルウェー、オーストリア、デンマーク、フランス、ドイツ、ギリシャ、ローマ法王庁、マルタ、ポルトガル、スペイン、スウェーデン）、及び7諮問機関（Academic Cooperation Association (ACA), Council of Europe (CoE), Education International (EI), National Unions of Students in Europe (ESIB), European Commission (EC), European University Association (EUA), United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization (UNESCO-CEPES)から。後にEuropean Association of Institutions in Higher Education (EURASHE)からも参加。
- 2003 年 6 月：BFUG 会合で報告、ベルリン・コミュニケに含めるべきポイントなどを提案

- 2003 年 9 月：ベルリン・コミュニケ
  (1) 世界の他地域のボローニャ・プロセスへの関心を歓迎する
  (2) 欧州高等教育の魅力とオープン性を強化していく
  (3) 途上国からの学生に対する奨学金を更に発展させる準備がある
  (4) 高等教育の超国家的交流においては質の高さや学術的な価値を優先させる
  (5) ボローニャ・ミーティングやセミナーを非欧州参加者にも公開することにより、世界の他の地域との協力を進める
  ＊ボローニャ・プロセス参加資格の限定も同会合時に行われた点注意
- 質の保証：ボローニャ・プロセス開始当初優先課題ではなかったが、2003 年ベルリン会合後注目の高まり。2005 年：ベルゲンで採択されたThe European Standards and Guidelines for Quality Assurance in the European Higher Education AreaとOECD/UNESCO Guideline for Quality Provision in Cross-border Higher Education間にパラレル
- 2005 年ベルゲンコミュニケ：改革プロセスに関する情報の他地域との共有、パートナー地域の確認、ワーキング・グループによるExternal Dimension Strategy策定
- 2005 年末 WG アジェンダ：
- 2006 年 6 月ギリシャ・セミナー：ロンドン会合へ向けて提案
- 2006 年 9 月オスロ・セミナー、報告書ドラフト発表
  欧州外との協力のための4つの道：
  (1) 他地域に対し、欧州高等教育圏（EHEA）を代表し、説明していく
  (2) 欧州外の学生に対し研究教育における欧州の魅力を広める
  (3) 欧州・非欧州機関間での互恵性のある活動へ向けての協力関係
  (4) 対話を通じて、ボローニャ圏外で関心を寄せるものと高等教育改革の知見を共有していく
  ＊日本からは文部科学省の籾井（もみい）圭子氏（OECD 教育局教育研究革新センター(CERI)）がコメンテーターとして参加、ボローニャ・プロセスについて日本は主に、他国による国境を越える高等教育のサービスの日本への進出の可能性の路線上で捉えている旨報告している。
- 2006 年 12 月最終報告書「Looking Out: The Bologna Process in a Global Setting」発表
- 2007 年 5 月 10 日付駐日欧州委員会代表部ニュース

  ボローニャ・プロセスを世界に拡大：フィゲル教育・訓練・文化担当欧州委員会委員、高等教育制度改革を地球規模の問題として位置づける

  ロンドンの会合で、各国の高等教育担当閣僚は、欧州の高等教育を国際的な文脈に位置づけるための戦略を採択する。高等教育の分野における質向上には、国際的な対話や比較、競争が有効な推進力となる。この方面での活動には、より効果的な情報提供、欧州の高等教育機関の吸引力と競争力の促進、パートナーシップの拡充、政策対話の強化、認証制度の改善などが含まれる。

  欧州委員会は、さまざまな政策や計画を通じて、このグローバル戦略を具体的に支えている。例えば、EU の近隣諸国の高等教育改革については、テンプス計画（Tempus Programme）をはじめとするさまざまな計画を通じた支援を行っている。そのほか、欧州以外の大陸との関係を支援する二者間および多角的協力計画も複数存在している。EU・米国および EU・カナダ協力プログラム、アジア・リンク、アフリカ・カリブ海・太平洋（ACP）諸国を対象としたエデュ・リンク、ラテンアメリアを対象とした ALFA および ALBAN 計画、そして、アフリカを対象とする新しいニエレレ計画（Nyerere Programme）などである。最後に、エラスムス・ムンドゥス計画では、世界中の学生を対象に、複数の欧州諸国にまたがる修士レベルの学習プログラムで学ぶための奨学金を提供している。また、欧州委員会が EU の第 7 次研究枠組み計画を通じて高等教育機関の研究活動を支援する上で重要な特徴となっているのが、欧州域外の教育・研究機関との協力を一層重視するという目標である。

- 2007 年 5 月 17 日～18 日ロンドン会合「世界の中の欧州高等教育圏」
- 2007 年 5 月 18 日に採択されたロンドン・コミュニケ（関連部分抜粋）：

- ボローニャ改革が世界の多くの地域の関心を呼び、ヨーロッパとそのパートナーの間で、認証評価やパートナーシップに基づいた協力、相互理解、ボローニャ・プロセスの価値等々対話が進んでいることを歓迎する（2.19）
- 他地域において行われている、高等教育システムをボローニャと調整する試みを歓迎する（2.19）
- 「世界の中の欧州高等教育圏」戦略を採択する(2.20)
- 戦略の核となるのは、EHEAに関する情報の充実、EHEAの魅力と競争力のプロモーション、パートナーシップに基づいた協力、政策対話の強化、OECD/UNESCOの「国境を越えて提供される高等教育の質保証のためのガイドライン」と関係づけながらの認証評価システムの向上（2.20）
- BFUG は国際的状況に関し 2009 年までに報告をまとめること、そこで優先すべきは（1）ボローニャ公式ウェブサイトや EUA のボローニャ・ハンドブック作成などによる EHEA に関する情報の充実、（2）認証評価システムの向上（3.6）

The European Higher Education Area in g global context
2.19 We are pleased that in many parts of the world, the Bologna reforms have created considerable interest and stimulated discussion between European and international partners on a range of issues. These include the recognition of qualifications, the benefits of cooperation based upon partnership, mutual trust and understanding, and the underlying values of the Bologna Process. Moreover, we acknowledged that efforts have been made in some countries in other parts of the world to bring their higher education systems more closely into line with the Bologna framework.

2.20 We adopt the strategy "The European Higher Education Area in a Global Setting" and will take forward work in the core policy areas: improving information on, and promoting the attractiveness and competitiveness of the EHEA; strengthening cooperation based on partnership; intensifying policy dialogue; and improving recognition. This work ought to be seen in relation to OECD/UNESCO *Guidelines for Quality Provision in Cross-border Higher Education*.

The European Higher Education Area in a global context
3.6 We ask BFUG to report back to us on overall developments in this area at the European, national and institutional levels by 2009. All stakeholders have a role here within their spheres of responsibility. In reporting on the implementation of the strategy for the EHEA in a global context, BFUG should in particular give consideration to two priorities. First, to improve the information available about the EHEA, by developing the Bologna Secretariat website and building on EUA's Bologna Handbook; and second, to improve recognition. We call on HEIs, ENIC/NARIC centres and other competent recognition authorities within the EHEA to assess qualifications from other parts of the world with the same open mind with which they would expect European qualifications to be assessed elsewhere, and to base this recognition on the principles of the LRC.

・ 次回ボローニャ会合はベネルックスを幹事に 2009 年 4 月 28・29 日にベルギーのルーバン/ルーバン・ラ・ヌーブ Leuven/Louvainla-Neuve で開催される予定。

3. 他地域とボローニャ・プロセス

・ 欧州側：EHEA 圏を限定すると同時に境界を越えた他地域のパートナーとの協力がボローニャのアジェンダに
他地域：世界的な高等教育改革の流れがあり、そこに主要概念的背景 key conceptual background としてのボローニャ・プロセス

- 欧州外への影響：基本的には歴史的な関係を反映、＋経済発展状況等（e.g. 中国、インド）
- 影響が見られる地域：ラテンアメリカ、地中海沿岸、アフリカ、中央アジア/移行経済諸国、オーストラリア、東南アジア（？）
- 影響が見られない地域：米国、東アジア
- 高等教育改革のモデルとしてのボローニャ・プロセス→地域間交流プログラムへの取り入れ：
  （1）EHEA 実現の手段であるディプロマ・サプリメントや質保証手続きなどのアラカルト的試行
  （2）3 サイクル制など、ボローニャ・モデルによる大規模な国レベルでの高等教育改革
- 不安：「一方通行」、「不透明」、「内向化する欧州高等教育統合に取り残される」、警戒心「European Colonialism」
- 要望：ボローニャ・プロセスに関する情報提供
- 「ポジティブ・フィードバック」

4. 地域間交流プログラムの展開

- テンプスTempus (Trans-European Mobility Scheme for University Studies)：西バルカン、東欧、中央アジア、北アフリカ、中東など非EU26 カ国との交流プログラム。EUとパートナー諸国間の高等教育協力のために 1990 年代初めに開始されたプログラム。高等教育改革に関しボローニャ原則を取り入れ。カリキュラム開発、教員研修、大学運営、高等教育制度改革プロジェクトなど。ボローニャ構想に関心を持つパートナー諸国に広める理想的な媒体と見られている。
  ＊ 非 EU メンバー：（1）西バルカン：アルバニア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、クロアチア、マケドニア旧ユーゴスラビア共和国、モンテネグロ、コソボ、セルビア（2）東欧、北アフリカ、中東 ：アルジェリア、アルメニア、アゼルバイジャン、ベラルス、エジプト、ジョージア、ヨルダン、レバノン、モルドバ、モロッコ、パレスチナ自治政府、ロシア連邦、シリア、チュニジア、ウクライナ （3）中央アジア：カザフスタン、キルギスタン、タジキスタン、トルクメニスタン、ウズベキスタン （4）以下の国の機関はプロジェクトに参加できるが、費用は自己負担：トルコ、オーストラリア、カナダ、アイスランド、日本、リヒテンシュタイン、ノルウェー、ニュージーランド、スイス、米国、イスラエル
- アルファAlfa (América Latina - Formación Académica) Program：メンバーはEU諸国及びラテンアメリカ 18 カ国（アルゼンチン、ボリビア、ブラジル、チリ、コロンビア、コスタリカ、キューバ、エクアドル、エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラス、メキシコ、ニカラグア、パナマ、パラグアイ、ペルー、ウルグアイ、ベネズエラ）。メンバー諸国の大学同士のネットワーク構築、移動、EHEAの魅力のプロモーションなどを目的とする。
- エラスムス・ムンドゥスErasumus Mundus：2004 年に途上国との協力を通じた欧州高等教育の質向上を目的として欧州委員会が開始。Tempusよりも大学院（修士）レベル学術交流及び欧州モデルのプロモーションに重点を置き、奨学金プログラムを提供している。2008 年までにErasmus Mundus Grantsにより大学院生 9000 名、教員 2000 名が行き来する予定。アジア向け奨学金プログラムとしてAsian Windowsがある。2007 年 7 月 12 日に 2009 年から 2013 年までの期間を対象としたエラスムス・ムンドゥスII案が採択されている。（別添参考資料参照のこと）
- アルバン計画Alban：対象ラテンアメリカ
- ニエレレ計画Nyerere Programme：対象アフリカ

5. 国/地域別動向：欧州高等教育圏 EHEA は拡大していくのか？

（1）中央アジア/移行経済諸国

- 「EHEA 圏外」だが伝統的にロシアやウクライナの大学との関係が深い。
- Tempus プロジェクト「キルギス共和国ボローニャ・プロセス・ナショナル・インフォメーション・センター設立」：伊ピサ大学、ベルギーのゲント大学、キルギス共和国教育科学青年政策省、キルギス1

1高等教育機関の合同プロジェクト。ボローニャ・プロセスに関する情報の供給だけでなく、Tuningプロジェクトにも関係している。

（2）北アフリカ/地中海沿岸/中東

- 北アフリカ（マグリブ）フランス語圏諸国（アルジェリア、モロッコ、チュニジア）：元々フランスに準じた高等教育システムを持つ。ボローニャ・プロセスによるフランスの資格認定システム修正に合わせ、LMD(3-5-8、*licence, master, doctorat*)制に高等教育システムを調整中。アルジェリアとモロッコではフランス政府、欧州連合、世銀の援助で、2003－2004 年度以降いくつかのパイロットケースですでに適用されている。
- テンプスを通じた欧州と地中海諸国の対話。モロッコ、アルジェリア、チュニジアの「欧州・地中海高等教育研究圏Euro-Mediterranean Higher Education and Research Area」統合が目標
  2006 年 1 月カタニア宣言Catania Declaration。署名国：アルジェリア、エジプト、ヨルダン、モロッコ、チュニジア、トルコ、フランス、ギリシャ、イタリア、マルタ、ポルトガル、スロベニア、スペイン
  ボローニャに似たアクション・ライン：欧州・地中海圏における高等教育の比較可能性や可読性システマティック促進のための協力。「互換可能な単位や可読性の高い学位認定書に基づき、労働市場に役立つ共通教育・訓練パスを設立し、学生や研究者・教員の移動を容易にする」
  2008 年にフォローアップ・ミーティング開催予定
- 欧州委員会Jean Monnetプロジェクトの一環として、地中海大学フォーラムThe Mediterranean University Forum設立。2005 年の第二回会合ではThe Tarragona Declarationに 30 カ国の 137 大学が署名した。
  参加メンバー：（1）以下の 30 大学の学長、Université d'Oran Es-Senia (アルジェリア)、Université Catholique de Louvain (ベルギー)、Roskilde University (デンマーク)、University of Cairo (エジプト)、University of Ljubljana (スロベニア)、Universitat Rovira i Virgili (スペイン)、Universitat Autònoma de Barcelona (スペイン)、Universitat de València (スペイン)、Universitat de les Illes Balears (スペイン)、Universitat de Barcelona (スペイン)、Universitat Politècnica de Catalunya (スペイン)、Universitat Pompeu Fabra (スペイン)、Universitat Oberta de Catalunya (スペイン)、Universitat de Girona (スペイン)、Universidad de Zaragoza (スペイン)、Université Aix-en-Provence (フランス)、Université de Lyon ((フランス)、Institut Catholique de Paris ((フランス)、Westminster University (英国)、University of Szeged (ハンガリー)、Universita' di Napoli L'Orientale (イタリア)、Università degli Studi di Urbino Carlo Bo (イタリア)、Università di Lecce (イタリア)、University of Saint Joseph (レバノン)、University of Malta (マルタ)、Université Abdelmalek Essaâd (モロッコ)、Université Al Akhawayn (モロッコ)、Université Cadi Ayyad de Marrakech (モロッコ)、Université Sidi Mohamed Ben Abdellah (Fès) (モロッコ)、University of Birzeit (パレスチナ)、University of Aleppo (シリア)、Université deTunis (チュニジア)、Université El Manar(チュニジア)、University of Marmara (トルコ)、University of Karadeniz (トルコ)、University of Akdeniz (トルコ)、（2）機関 European University Association (EUA)、European Comission、Ministerio de Educación, Cultura y Deporte. Secretaría de Estado de Universidades, Investigación y Desarrollo、Generalitat de Catalunya. DURSI、Institut Europeu de la Mediterrània、Ministry of Culture of The Hashemite Kingdom of Jordan、Anna Lindh Euro-Mediterranean Foundation

（3）アフリカ

- 植民地時代に多様なヨーロッパシステムの影響を受け、「欧州による分裂」を引きずる
- 高等教育改革モデル、地域間協力モデルとしてのボローニャ

- 但し、アフリカの大学同士でよりも南北関係の協力・交流に重点（ヨーロッパの元宗主国との関係）。アフリカ内でも第一外国語（フランス語、ポルトガル語）や似た植民地経験などが軸になりがち。
- 欧州諸国がアフリカなど途上国より EHEA 圏内協力に重点をおくようになることへの心配
- アフリカ高等教育機関にとっては、より魅力的な欧州留学、内向的な欧州高等教育圏も挑戦
- 2005 年 7 月（於：セネガル、ダカール）、2006 年 5 月（於：モロッコ、エルジャディーダ）、2007 年 7 月 16 日～18 日国際会議「African Universities' Adaptation to the Bologna Process」（於：コンゴ）
- The Agence Universitaire de la Francophonie (AUF)：2002 年以来毎年会合。主に LMD 制導入について話してきたが、最近は質保証システムの向上、共同学位の導入、研究力の向上、機関運営、COE 設置などが取り上げられている。658 大学が加盟。
- アフリカ開発銀行 The African Development Bank は、The West African Monetary and Economic Union 西アフリカ経済・通貨同盟諸国(WAMEU)（ベニン、ブルキナファソ、コートジボワール、ギニアビサウ、マリ、ナイジェリア、セネガル、トーゴ）への LMD 制の導入は高等教育や訓練プログラムの質向上の効果的として重視しており、財政支援を行っている。
- ポルトガル語圏：The Association of the Portuguese Speaking Universities (AULP)（（1）以下の国の大学：アンゴラ、ブラジル、カーボベルデ、ギニアビサウ、マカオ、モザンビーク、ポルトガル、サントメ・プリンシペ、（2）準会員：米国のブラウン大学、コロンビア大学、コーネル大学、ジョージタウン大学、ニューヨーク市立大学、テキサス大学、フランス大学1、イタリア大学2）

  2002 年の会合(於：アンゴラ)において「The Lusophone Higher Education Area ポルトガル語高等教育圏(LHEA)」設立で合意。

  2003 年の会合（於：マカオ）においては、質保証、相互資格認定、学生の移動性、教育期間の認定と共同学位に基づいた交流の 4 分野に焦点を当てて協力していく旨合意。

  高等教育に関して話し合うために教育大臣会合を定期的に開催している、ポルトガル語圏諸国共同体 The Community of Portuguese Speaking Communities (CPLP)を通じて政府に働きかけ。それを受けて CPLP は 2004 年に The Fortaleza Declaration を採択。フォローアップ・グループも設置され、2 年ごとに会合し、ボローニャ・プロセスとの収斂を探っていく予定。

（4）ラテンアメリカ・カリブ海諸国

- 政治レベルでは進んでいるが、機関レベルでの実施はそれほど行われていない模様。
- この 10 年のうち政府レベルでヨーロッパとラテンアメリカ・カリブ（LAC）諸国の二地域間関係が進展。2主要チャンネル：（1）EU とリオ・グループの外務大臣レベル、（2）EU=ラテンアメリカ・カリブ諸国国家元首サミット会議（第1回 1999 年、第 2 回 2002 年）
- 2006 年の第 3 回サミット（於：ウィーン）での宣言：「移動性と協力を目指し、The EU-LAC Common Area of Higher Education 高等教育共同圏創成を優先課題とする」
- 2002 年大臣会議（於：パリ）で「The EULAC 高等教育フレームワーク」。学位の比較可能性向上、互換可能な単位システム
- 推進組織（1）Iberoamerican University Council (CUIB)：2001 年にコロンビアで創立、ネットワークの形で活動する NGO、（2）欧州大学協会 European University Association (EUA)。2004 年 5 月に協力合意書に署名
- 2006 年 4 月 Asturias Declaration：「ボローニャ・プロセスなどヨーロッパ側の進展とラテンアメリカ・カリブ海諸国での同様プロセスの収斂のための情報共有促進」「協力優先分野として共同プログラム、学生・教員の交流」「欧州委員会には、Alpha、Alban、Erasmus Mundus 等既存のイニシアティブを強化してラテンアメリカ・カリブ海諸国に開くよう求める」
- 2003 年以降ボローニャ会合にオブザーバーを送り続けている。
- 機関レベルの協力はまだ初期段階。「メキシコやブラジルではボローニャ・プロセスやエラスムス・

ムンドゥスもよく話題に上り、欧州高等教育改革やプログラムに対する関心は高い。しかしながら高等教育関係者は、協力が一方的で透明性を欠いたものになるのではないかと不安を持っており、ボローニャやエラスムス・ムンドゥスによる欧州の魅力向上に関し懐疑的である。」（Academic Cooperation Association (ACA)による Perception Study）

- 情報不足もよく指摘されている（上記 ACA の国別報告書など）。「Alban、Alfa、Tuning、Erasmus、Erasmus Mundus などの欧州プログラムが、交流団体担当者や各大学内部に知られていない。一般的なプログラム、資格認定、大学院課程認証に関する情報が欲しいとの要望が高い。」
- 一方、2001 年に欧州で開始されたTuning ProjectのLAC版、The ALFA Tuning Latin America Projectが 2003 年に提案され、開始されている。欧州・LACの両方の大学が参加（LACからは 181 大学、18 チューニング・センター）。グループ別（建築、ビジネス、化学、土木工学、教育、地質学、歴史、法学、数学、医学、看護学、物理学）。2006 年にブリュッセルで合同会議開催、意見交換を進めている。

（5）アジア：全体

- 欧州からは主に「留学生の供給源」と捉えられがちな地域（中国、インド他）
- 現在の留学先はもっぱら英語圏でオーストラリアと米国、欧州国内では伝統的に英国のシェアが高い
- ボローニャ・プロセスにより、欧州大陸諸国もアングロ・サクソン・システムに近づく
- 欧州側からのアプローチ：2002 年、欧州委員会がアジアの途上国相手に文化協力プログラム Asia Linkを開始。EU諸国とアジア対象国の高等教育機関を結ぶ多国間ネットワークの促進。人材開発、カリキュラム開発、プログラム支援。2006 年～2008 年にアジアで7欧州高等教育フェアを財政支援（於：タイ、インド、マレーシア、中国、ベトナム、フィリピン、インドネシア）。個人への奨学金は扱っていない（奨学金に関してはErasmus MundusのAsian Windowsなどがある）。アフガニスタン、バングラディシュ、カンボジア、中国、香港、マカオ、インド、インドネシア、ラオス、マレーシア、ネパール、パキスタン、フィリピン、シンガポール、スリランカ、タイ、ベトナムに代表を置く。
- 一方で、インドや中国は国際的な高等教育の供給国化を進めており、優秀な留学生、研究者の獲得に力を入れている。（後述）

（6）東南アジア

- 地域動向：東南アジア諸国連合 ASEAN が 1995 年に設立した ASEAN University Network (AUN)が、1998 年にAUN-Quality Assurance (AUN-QA)Networkingを設置。2005 年にASEAN 教育大臣会合開催（於：バンコク）、ASEAN 機構内に教育大臣会議を設置する旨合意。
- AUN の活動対象は ASEAN 諸国だけでなく、「対話パートナー」である韓国、日本、インド、中国、ロシア、EU も含む。EU との間の地域間協力は 2000 年～2006 年の ASEAN-EU University Network Programme (AUNP)を通じて。欧州の経験・知識の転用による東南アジア諸国の大学の強化も狙いのひとつ。活動例：ASEAN-EU 合同学長会議（2004 年マレーシアにおいて「高等教育と持続可能な開発」、2005 年ベルギーで「国境なき教育」）、2003 年「質保証」会議、2005 年「高等教育の自律性」会議、2005 年「グローバル化する世界における地域間協力」会議。2005 年には質保証や単位互換システムに関する技術的協力で合意。
- 欧州側：「EHEA のよきパートナーとなる可能性大」

（7）シンガポール

- 政府方針：東南アジアにおける「世界的教育ハブ」、戦略拠点化を狙う。
  - 海外エリート大学とのプログラムによる優秀な留学生の獲得
  - 海外大学とシンガポール民間セクターによる国内高等教育需要対応（レベルが高い公立大学

に入れない学生）

- 1998 年政府主導で「世界クラス大学プログラム The World Class University Proframme」として世界のトップ 10 大学誘致活動。大半は米国大学だが、2001 年以降、ヨーロッパの 2 名門大学がインスティテュートを設立している（Technische Universiteit Eindhoven [Desing Technology Institute]、Technische Universität München [German Institute of Science and Technology]）。
- 欧州の状況を自己の戦略に利用していくか
- 但し最近オフショアプログラム撤退が相次いでいる（「名門大学がホームベースを離れた場合の吸引力の低下を過小評価し、現実的なターゲット設定をしていない」「教育省は質の保証に対する放任主義を改めるべき」）：
  - 2006 年 7 月、米国ジョン・ホプキンス大学が、1998 年にシンガポールに設立した生物医学研究施設の閉鎖を発表
  - 2007 年オーストラリアのニュー・サウス・ウェールズ大学もシンガポール分校の閉鎖を発表

（8）中国

- 欧州にとってこれまで高等教育輸入国だが、強力な競争相手となる可能性大。
- ボローニャ・プロセスについてはあまり知られておらず、関心は低い。（但し、2007 年ロンドン会合にはオブザーバーを送ろうとした。）
- 高等教育改革政策面で、欧州とパラレル。1998 年（ソルボンヌと同時期）、情報技術革命の挑戦やグローバル化経済による競争の激化を意識し、高等教育改革令（大学就学率の上昇、世界クラスの大学の設立）。1999 年 6 月（ボローニャ宣言と同時期）に中国共産党と中国国務院が第三回教育国民会議を開催、1998 年政令の全国実施を再強調（「プロジェクト 985」）
- 中国政府は高等教育における国際的な協力・交流を重視しており、他国との教育協力も更なる増加の見込みだが、相手は欧州に限られない。
- 英語によるコースの開講や国際的に認められたパートナーとの協力を進めている（例：シンガポール NUS との提携による MBA 英語共同学位プログラム）。

（9）オーストラリア

＊詳細は「ボローニャ・プロセスに関するオーストラリアの動向　1」参照のこと

- National Union of Student (NUS)は、過去 10 年間英国・スコットランド型モデルに代わる改革アジェンダを米国に求めていたオーストラリア政府が、ヨーロッパからインスピレーションを得ようとしていることに驚きを隠さない。「アジア、南米、北米のボローニャ・プロセスへの反応を見ていて、世界的な学位構造となりそうなものから取り残されることをよしとしなかったのだろう」
- National Tertiary Education Industry Union (NTEU)：「中国をはじめアジアがヨーロッパの発展状況に合わせてようとしているなら、オーストラリアもそうせざるを得ない。」

（10）ニュージーランド

- アジア、米国（及びオーストラリア、ラテンアメリカ）の動向を重視
- 教育省が 2007 年 2 月 23 日に「Bologna Day: The Bologna Process and New Zealand」を開催
- 以下の2つのバランスを取る必要
  （1）「ボローニャ・プロセスは、米国におけるニュージーランドの 3 年制学士号の認定向上に関しプラス」
  （2）「アジア諸国は欧州より米国よりの路線を取るのではないか」

（11）米国

- 巨大、多様、分権的、競争力のある高等教育

- 最近の留学生数の減少に関しては、政府、学術・教育機関ともに行動を起こす必要を感じている。
- 連邦政府は 2005 年 9 月包括的全国戦略策定のために教育省高等教育の将来委員会 The Secretary of Education's Commission on the Future of Higher Education を設置。2006 年 9 月に報告書。EHEA やボローニャ・プロセスに関する記述は見当たらない。
- 2003 年には米国は UNESCO に再加盟し、欧州評議会オブザーバーステータスを得ているが、UNESCO 内でも欧州は欧州内部のボローニャ課題に忙しく、External Dimension に関する対話を始められず。
- 米国/北米大学関係者間では、欧州高等教育は「複雑で制度的に階層化しており学術上も運営上も柔軟さに欠け、外部に対し無知、傲慢、保護主義的」との見方が根強い。
- 「ボローニャは、欧州高等教育セクターを EU の経済発展戦略に組み込もうとする政治的な性質のものであり、外部との架け橋というよりは、内向的なものである。」
- 但し、米国の高等教育機関や関連機関が高等教育グローバリゼーションを深刻な挑戦と捉えていないということではなく、World Education News and Reviews (WENR) （学術的資格認定に関する問題を扱っている）等専門メディアはボローニャ・プロセスの進行状況をフォローし続けている。
- 「ボローニャ・プロセスによるシステムは構造面でも制度面でも米国のそれに近く、必要なのは技術的な詳細に関する対話程度」（米国教育省下の The US Network for Education Information (USNEI)の Stephen Hunt 政策企画長）
- 「国際化」に対する認識の違い：（1）米国ー国の安全保障と外交政策が背景にあり、高等教育機関に求められているのはカリキュラムのグローバル化と異文化理解意識の促進（→「ポール・サイモン留学基金」）、（2）欧州ーもっぱら教育の質と経済的競争力を狙いとしており、高等教育に求められているのは教育の拡大と多様化、学生の移動、ネットワーキング（同上）
- 修士課程受け入れ及び一般教育をめぐる問題：2004 年に誕生し始めたボローニャ学士（3 年で学士号取得）留学生の大学院課程受け入れに際し、欧州学士号が議論の的に（英国学士号など、これまでは例外として認めるのが慣行だった）：「専門に集中しすぎで、米国学士教育で重視されている一般教育に欠ける」「単に 3 年制だからといって、専門分野で充分に訓練を受けた申請者を拒絶するのは国際移動性にとってマイナス」。欧州側は米国中等教育の質の低さを挙げ、「欧州では一般教育の部分は中等教育時代にカバーされているので 4 年制学士課程は不要」。大学のあり方に関する問いでもあり、決着は着いていない模様。大学入学における条件の違いなどもあり、学習成果の評価が焦点となってくるか。
- 学位の捉え方の差：米国では学士号それ自体で最終目標となるものと考えられているが、欧州（大陸諸国）では学士号は伝統的に「真の学位」である修士号の準備段階と見られている。

＊隣国カナダは米国とも関係が深いため、オーストラリアほど割り切ったボローニャ・モードを取れずにいる様子。

結論：日本へのインプリケーション

ディスカッション・シートへ

以上

主な参考資料

Bologna external dimension working group ウェブサイト
http://www.dfes.gov.uk/londonbologna/index.cfm?fuseaction=content.view&CategoryID=17&ContentID=27

The Bologna Process and New Zealand (2007 年 2 月 23 日);
http://itpnz.ac.nz/issuespapers/Bologna_Day_Background_Information.pdf

Cate Gribble and Grant McBurnie (2007) "Problems with Singapore's Global Schoolhouse," in *International Higher Education* No.48 (Summer 2007) pp.3-4.

Conrad King (2006) *The Bologna Process: Bridge or Fortress?: A Review of the Debate from a North American Perspective*;
http://www.ccges.yorku.ca/IMG/pdf/Conrad_King_Literature_Review.pdf

World Education Services (2007) "The Impact of the Bologna Process beyond Europe, Part 1," *World Education News and Reviews April 2007；*
http://www.wes.org/ewenr/PF/07apr/pffeature.htm (Accessed on July 21)

Pavel Zgaga (December, 2006) *Looking out: The Bologna Process in a Global Setting On the "External Dimension" of the Bologna Process* (final report);
http://www.bolognaoslo.com/expose/global/download.asp?id=51&fk=29&thumb=

Pavel Zgaga (June, 2006) *External dimension of the bologna process* (first report);
http://www.bolognaoslo.com/expose/global/download.asp?id=28&fk=11&thumb=

Pavel Zgaga (June, 2006) *Towards the "External Dimension" Strategy: Report from the Bologna Seminar on the External Dimension of the Bologna Process*
(Bologna Process Official Seminar, the External Dimension of the Bologna Process "Putting European Higher Education Area on the Map: Developing Strategies for Attractiveness" Athens, 24th – 26th June 2006);
http://www.see-educoop.net/education_in/pdf/B-2%20REPORT%20Athens.pdf

Workshop: Transatlantic Academic Mobility and the Bologna Process: Bridge or Fortress Builder?
http://www.ccges.yorku.ca/Workshop-Transatlantic-Academic

駐日欧州委員会代表部 「ボローニャ・プロセスを世界に拡大：フィゲル教育・訓練・文化担当欧州委員会委員、高等教育制度改革を地球規模の問題として位置づける」 *EU News* 64/2007 - 2007/05/10;
http://www.deljpn.ec.europa.eu/PHP/printPage.php?printPage=http://jpn.cec.eu.int/home/news_jp_newsobj2226.php